

## 早稲田大学 人間科学部 英語 講評

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	大問3題は例年通り。設問形式も概ね変わっていない。〔I〕に関しては、英文の総語数はほぼ同数、英文の内容、設問の難易度はやや昨年よりやさしくなったと言えそう。ただ、相変わらず悩ましい選択肢も少なからずあった。〔II〕に関しては、基本的には難問と呼ばれる問題が多々ありながら、年によっては比較的やさしかったり、数年前のように難問だらけになったり、と紆余曲折を経てきたが、ここ数年やっと良問が多くなってきた中、今年度はまたやや難しくなった印象がある。なかなか難易度が定まらない大問だ。〔III〕に関しては、昨年並みと言えよう。そうは言っても、正誤問題はそもそも解きにくいのが世の常なので、正解を出すのは相変わらず結構大変だ。気がつく力が重要な大問。全体的には〔I〕が少し楽になったので、昨年よりやや得点しやすくなったと言えよう。数年前までは〔II〕と〔III〕が難しかったので差がつく大問であったが、最近は配点も高い可能性の高い読解の〔I〕の出来が合否に左右すると言えそう。65%程度が合格最低点だと考える。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔I〕	英文読解問題	比較的短い8題の読解問題。設問に空所補充問題が5カ所出題されたのが今までにない傾向だ。前置詞か副詞を使った熟語が狙われているので、〔II〕と重複しそうな感じだが、以前もそのような問題が出題されたことはある。ただ、次年度もこの傾向が続くかは何とも言えない。分量は昨年並み、レベルは昨年よりやや易化したと言えそう。テーマに関しては、以前は自然科学系が断トツで多かったのだが、今年度は社会科学系と自然科学系がほぼ同数だ。設問は基本的に内容を問う問題で、What や How、Why、Which など始まる疑問文に対して正解選択肢を選ばせる問題だ。今年度も選択肢に All of the above、None of the above、Not enough information given の選択肢が入っていた。この種の選択肢が多いということは、他の選択肢をすべてしっかり検討してみないといけないわけで、時間がかかる設問ということになる。リードの部分に What is the main idea of this passage? や What is the best title for this passage? What is a conclusion one can reach from this passage? などの間があるのも特徴だ。テーマとしては、専門的な内容の英文が多く、知らない単語もあるだろうが、細部にはこだわらず、いかに要旨をとらえるかがカギとなる。解く者の宿命だが、あまり正解にこだわると時間がどんどん過ぎていく。時間配分をしっかりと頭に叩き込んでおきたいものだ。本当に紛らわしく正解を出すのに困る問題もあるので、3割強は落としても仕方ないと思って取り組もう。	やや難
〔II〕	空所補充問題	前置詞を入れさせる空所補充問題。今年度は昨年よりやや難化した。入試に頻出の熟語が比較的多かったが、名詞につく前置詞など熟語とは言えない前置詞の使い方も若干狙われた。31、32、36あたりは基本熟語と言えそう。run out of「～を使い果たす」 have faith in「～を信頼する」 burst into tears「突然泣き出す」である。それに対して26、27、29、40はやや難しい程度。30、38はできなくても仕方ないかもしれない。33の restrictions on「～に対する制限」 34の sit at the table「テーブルにすわる」 35の Books by「～による本」あたりは大昔によく出されていたタイプの問題。名詞につく前置詞や前置詞本来の意味から正解を出すタイプだ。今年度の NO WORD は2つで、例年一番多いパターン。覚えておくといいだろう。一昨年なら10程度の正解を目指すべきだが、今年度のレベルなら8程度であろうか。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅲ〕	正誤問題	<p>難易度は昨年並みか。すぐに間違いが見える問題はいいのだが、そうでないところで差がつきそうだ。誤り箇所として狙われたところは、ingredient→ingredients、will arrive→arrives、discuss about→discuss、I was very painful→It was very painful、admit→allow、convenient and excitement→convenience and excitement、than→rather than となる。品詞、語法、文法のいろいろな分野から出題されているが、例年動詞に関連したものが多いし、今年度もNO ERRORを含めて多かったのは間違いない。NO ERRORは今年度は3つであったが、例年は2つが多いことを覚えておこう。とにかく、昔よりやさしくなったとはいえ、やはり正解を出すのは結構大変だ。見抜く力を根気強くつけないとなかなか解けない設問だ。他の受験生もそう簡単には正解できない大問なので、6問程度の正解を目指そう！</p>	標準